

おかげさまで100周年を迎えることができました

医療法人 新井病院

新 栄

第30号

令和4年10月

新井病院ホームページ

<http://www.arai-byoin.or.jp>



〒346-0003

埼玉県久喜市久喜中央2-2-28

電話 0480-21-0070

編集発行

医療法人 新井病院

広報委員会



昭和47年 新井病院前にて

地域医療に貢献するために

新井病院は、新井外科醫院として1922年(大正11年)に新井勝二郎が開設しました。当時は医療機関が少なかったため、外科にとどまらずに広く総合的な医療を展開してきました。そして、来院する患者様に様々な医療を提供してきました。1967年(昭和42年)新井洋太郎が二代目の院長になりました。高度な医療を提供するために、世界で新しい検査機器や治療機材が開発されると、新井病院でも早々に導入したという歴史が残っています。

日本で初めての頭部CTが導入されたのは、東京女子医科大学に1975年(昭和50年)のことでしたがその5年後の1980年(昭和55年)には、当院にも設置されていました。また、全身用CTは1978年(昭和53年)に国立がんセンターに日本で初めて設置されましたが、4年後の1982年(昭和57年)には当院も導入しておりました。これらの検査機器は、手術なしで身体の内部を鮮明に観察できるため、病気の診断には大変重要な機器です。CTが早期に導入された後も、技術の進歩に伴い、常に新しい機種に入れ替えられてきました。

1984年(昭和59年)には放射線治療が開始されています。民間の医療機関で放射線治療を行うことは、極めて稀なことであり、医療の可能性を追い求めていたことが伺い知れます。2002年(平成14年)に新井晴三郎が三代目院長に就任し、新井病院の存続に大きく貢献したことは皆様もご存じのことと思います。

私は2004年(平成16年)に新井病院の四代目院長に就任しました。その頃は、医学の進歩と医療制度が変化の過渡期であると感じていました。新井病院のように、個人病院で総合的な医療を提供することが難しくなっていました。医学は、臓器別に進歩してきました。また医学の進歩に伴い、日本人の寿命が伸び、65歳以上の人口が7%以上の高齢化社会、その後14%以上となり、さらに21%以上の超高齢社会へと変化してきました。日本は、2019年(令和元年)の高齢化率が28.4%に達しています。これに伴い、医療体制の再編成が不可避となり、最先端医療から高度医療、急性期医療、回復期医療、慢性期医療、在宅医療と多様化しています。これらの医療体制は、それぞれの連携が重要となります。まず、体調不良の原因となる病気を見つけなくてはなりません。そして、その病気に対して通常の治療、高度な医療、最先端の医療の必要性を判断し患者様の治療を行います。また、超高齢社会では、通院が困難となった患者様の診療には、在宅医療が求められます。在宅医療においても、それだけで完結するのではなく、状況に応じて入院加療も必要となります。

最先端医療から在宅医療が連携してこそ、医療の充実と考えられると思います。新井病院は、これからも医療の連携を大切にして、患者様の診療を行いたいと考えています。

新井病院 院長 関谷 栄

新井病院 100年の歴史の中で

コロナ禍が始まり早2年半が過ぎ屋外ではマスクを外すことが出来たり外国人旅行者の受け入れが開始されたりと、コロナ前に当たり前だった日常が少しずつ戻りつつありますが、未だ予断を許さない状況であることに変わりありません。

今年当院は開院 100 年目を迎えました。大正 11 年初代院長である私の祖父がこの地で外科醫院を開院して以来、休むことなく診療を続けてまいりました。初代院長新井勝四郎は加須市大室の出身で千葉医専を卒業。秋田県の小坂鉦山病院(当時は最先端の医療設備がありました)などで研鑽を積んだのち、ハワイに渡りました。日本人病院で勤務した後開業しましたが、母の危篤の知らせを受けて帰国。母の看病をするうちに自身も結核に感染、ハワイに戻ることを断念しこの地に開業致しました。

この 100 年の間には利根川の氾濫や地震、台風といった自然災害もありましたが、何より苦労が多かったのは戦時中だったと聞いています。祖父の思い出を家族と当時の職員の方が綴った本が残っており、その中に戦時中のことが書かれています。

「昭和 16 年 12 月 8 日、大東亜戦争が始まった。毎日空襲警報に脅かされる。食べ物は何もない。久喜にも機銃掃射で幾人も病人が運ばれてきた。手術は多かったが、手術室の無影灯は戦時中の金属供出の時に献納していた。」外科病院の命ともいべき無影灯までも献納しなければならなかったことで、戦況がいかに深刻だったかがわかります。裸電球に金魚鉢をかぶせて代用していたようです。

当時若かった看護師さんもこう記しています。「食糧事情は深刻になり 1 日 1 食たべられればよい苦難の日々でした。戦火は日増しに激しく、空襲警報の夜、暗闇の中かすかな光を頼りに、泣きながらイレウス(腸閉塞)のオペ準備に手術室に入ったこともあり。ある時は手術室に自転車を持ち込み、ペダルを踏みながら発電の光を利用して手術を行ったこともありました。」

初めてこの文章を読んだときには遠い過去の話としてしかとらえることができませんでした。しかしロシアのウクライナ侵攻で日々目を覆いたくなるような映像が報道される今、その悲惨な状況や命の危険と隣り合わせの恐怖がいかほどのものであったか、容易に理解できるようになりました。読むたびに胸のつまる思いが致します。それと同時にその中でも医療を続けていた先人に感謝と敬意を払わずにはられません。そして平和な時代に生きていることに改めて感謝し、世界で起きている戦争、紛争が 1 日でも早く終結することを願わずにはられません。

当院の患者様から「親子3代で通院しています。」「子供の頃からもう何十年も通っているよ。」といった有難い声を頂くことがあります。先日も 50 年前に久喜に引っ越してきて、今も通院されている方とお話しする機会がありました。越してきた当時体調を崩して当院を受診された時に、やさしく声をかけてもらったことが今でも忘れられないとおっしゃいました。夫は多忙で帰りが遅い、子供は小さくて手がかかる、知り合いは一人もいない、そんな中での体調不良、さぞかし心細かったことと存じます。「ちょっと無理しちゃったんだね、もう大丈夫だよ。」そのなにげないひとことのおかげでその方は 50 年も当院のファンでいて下さっています。

病気を治すことは医療の本質ですが、患者様の声に耳を傾けてその気持ちに寄り添うことがなにより大切であると、先人にまた教えられた気が致しました。100 年は一通過点に過ぎませんが、今まで病院を支えてくださったすべての方への感謝とこれからも地域医療に貢献したいと思う気持ちが一層強くなりました。

今年 4 月に自治医大さいたま医療センターより消化器外科の医師も加わり、当院消化器外科は精鋭3名体制になりました。100 年目の今年、当院の原点である外科病院としての新たな可能性を感じております。

医療情勢は今後も変化してまいりますが、中規模病院である当院の良さを生かしたアットホームで親しみやすい病院を目指してこれからも職員一同精進してまいります。どうぞ今後とも宜しくお願い致します。



開院当初 初代院長新井勝四郎
妻(愛)長男(洋太郎)と



初代院長 手術風景



理事長 吉田葉子

大正時代



初代院長 新井勝四郎

1922年 大正11年	30歳で新井外科醫院 を設立
----------------	-------------------



開業当初の新井外科醫院



ハワイホノルルの新井診療所の前で



新井外科醫院の病棟

新井外科醫院設立

明治25年1月15日、新井勝四郎は埼玉県宝珠花町(現春日部市)の大きな問屋の四男として生まれる。明治30年頃、東京四谷に転居その後家庭の事情で加須の大室へ引っ越す。不動岡中学校を経て千葉医専(現千葉大学医学部)入学する。大正2年、千葉大学卒業後、築地の池田病院に入職。その後秋田小坂鉦山病院へ異動。大正8年、ハワイ日本人病院に入職、その後ハワイで開業する。大正10年帰国。翌年大正11年、埼玉県久喜町に開業する。

昭和初期



1931年 昭和6年	新館建立
1955年 昭和30年	「医療法人新井病院」開設
1965年 昭和40年	58床に増床
1967年 昭和42年	新井洋太郎 二代目院長に就任



埼玉県で2番目に導入したレントゲン室の前(昭和元年)

新井病院新館建立

昭和6年、新井勝四郎自らの設計で新館を建築。当時としてはモダンな建物であった。患者様は多く病室も日々満床であった。食糧、医薬品の乏しい戦時中も休むことなく戦火で負傷した患者の診療にもあたった。昭和22年9月カスリーン台風で利根川が決壊し大洪水が起きた。病院は比較的高い場所にあり、幸い床下浸水で済んだが水の迫りくる速さは尋常ではなく井戸水は汚れ水の確保に苦勞した。

昭和中期



2 代目院長 新井洋太郎

1972 年 昭和 47 年	本館新築 119 床に増床
1980 年 昭和 55 年	頭部コンピューター断層撮影 (CT) 導入 超音波診断装置 (エコー) 導入
1982 年 昭和 57 年	全身用 CT 導入
1984 年 昭和 59 年	放射線治療装置コバルト 60 導入

本館新築

昭和 47 年本館新築。現病院の基礎となる建物を建築。病床も増やし最新の医療機器も積極的に導入し、新井病院の礎を築いてゆく。高度成長期の波に乗り、病院も大きくなり職員も大幅に増え地域密着型へと発展していく。

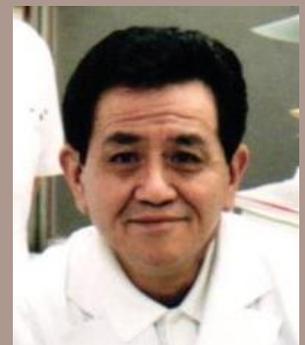


昭和 47 年の待合室



X 線検査室

平成中期



3 代目院長 新井晴三郎

1993 年 平成 5 年	MRI 導入
2002 年 平成 14 年	新井晴三郎 三代目院長に就任
2004 年 平成 16 年	関谷栄 四代目院長に就任
2005 年 平成 17 年	外来リニューアル



待合室



診察室



4 代目院長 関谷栄

外来リニューアル工事

平成中期、3 代目の院長新井晴三郎が就任する。

その後、現在の院長が4代目院長に就任。最新の医療機器のほか、オーダーリングシステムや画像ファイリングシステムを積極的に導入。病院全体のリニューアル工事にも着手する。まずは外来ブースを中心に待合室、診察室、受付などをリニューアル。新たな新井病院の一步を踏み出す。

平成後期

2011年 平成23年	本館改修工事(耐震) 東館新築
2012年 平成24年	市民講座 癒しのコンサート開催
2022年 令和4年	開院100周年



増改築工事

2011年に本館の耐震工事と東棟の建て替えを施工する。その際に、水害や地震などの災害に強く、さらには感染対策を考慮した建物を建築する。

自家発電設備	屋上に設置	水害で水没する可能性を考慮して地下室から屋上へ移動
給食等で使う熱源	プロパンガスを選択	地震の時に都市ガスは復旧に時間が費やされるため早期に復旧可能なプロパンガスを選択
リハビリ室	多目的に使用可能	メディカルコンソールを複数設置 災害時に軽症者を収容
感染対策	換気扇の設置位置を検討	空気の流れを考えて、患者間、患者職員間の感染が起こりにくい位置に換気扇を設置
災害時に多くの患者を収容	個室を2人部屋に転用可能	個室に2ベッドが置けるように設計 改修工事中に実際に2人部屋として活用



プロパンガスバルク



自家発電装置



リハビリ室

イベント

増改築工事後には地域の皆様と密着した医療を目指すため様々なイベントを開催。患者様に選ばれる病院を目指しております



市民講座



癒しのコンサート



学術発表会



糖尿病教室



市民祭り



市民祭り集合写真

新井病院 100 周年に寄せて—外科—

新井病院創立 100 周年を共に迎えることが出来たことを光栄に思うとともに、100 年間にわたる努力を永続し、現在も地域医療の最前線で医療を提供する病院として存続できていることに敬服する次第です。

新井病院は 100 年前の大正 11 年(西暦 1922 年)に、新井外科醫院として久喜の地に開業されております。第一次世界大戦(1914 年 7 月～1918 年 11 月)終戦から 4 年という時代の中で、早くから地域住民への医療を提供されています。当時の写真を拝見すると、大きな門構えに立派な木造建築の建物になっております。その建物の中で、昼夜問わず医療・手術がされていたそうです。その後、第二次世界大戦中(1939 年～1945 年 8 月 15 日)であっても、医療を提供し続け、多くの人々の命を救ってきたとお聞きしております。千葉大学外科(瀬尾貞信教授・中山恒明教授)の記録によると、当時は土曜、日曜の休みもなく朝から夜まで多くの患者さんが詰めかけ、急患・救急・診療科を問わず診察を行い、医師、看護師、事務職員を含め多くの職員が寝食を忘れ多忙を極めていたようです。

新井病院の歴史は、千葉大学外科(中山恒明教授)で修練された新井勝四郎先生(初代院長)から始まります。千葉大学外科の流れを汲む新井病院外科では、20 世紀の大半を占める昭和時代(1926 年～1989 年)は、一日に 15～20 件ちかくの手術を行っていました。現在では考えられないことですが、当時の手術記録には昼夜を問わず手術が施行されていることが記載されております。看護師が助手に入り、虫垂切除術であれば 10-15 分、胆嚢摘出術であれば 15-30 分、胃切除術であっても 60-90 分の短時間で終えていたようです。

その多忙な期間、新井病院外科医師として活躍された先生には、初代院長新井勝四郎先生をはじめ、新井洋太郎先生、新井嶺次郎先生、新井晴三郎先生、内村善一先生、神崎博先生と多くの優秀な先輩方がおられました。私(高田理)は、2017 年(平成 29 年)に入職しました。平成から令和の時代へ移り、久喜市周辺の医療環境も様変わりし、神崎博先生と外科 2 名体制となりました。外科治療・手術治療も大きな変革があり、拡大手術から低侵襲手術へ、開腹手術から腹腔鏡手術へと激変しました。私は、自治医科大学さいたま医療センターの初代宮田道夫教授からは地域医療の大切さを学び、二代目小西文雄教授からは医学研究の重要性と腹腔鏡手術を学びました。現力山敏樹教授から、毎日のように外勤医師を派遣していただいております。

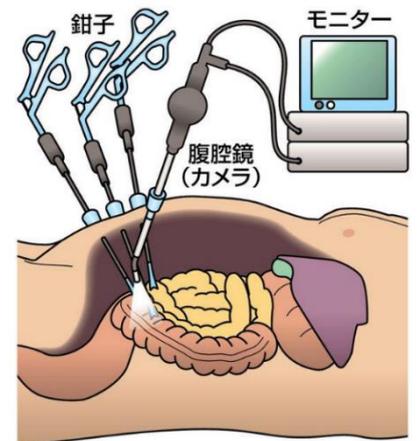
入職してからは、自治医大さいたま医療センターで学んだ癌治療および腹腔鏡手術を開始させていただきました。当初、腹腔鏡手術は胆嚢摘出術のみが行われておりましたが、虫垂切除術・単径ヘルニア修復術・腹壁ヘルニア修復術を導入した際には、開腹手術の手術時間の方が短いとの意見もありました。しかし、術後平均在院日数の短さ(つまり、低侵襲とも言えます)を実感していただき、現在では腹腔鏡手術が定着しております。

また、癌手術においては、まず、腹腔鏡下結腸切除術、腹腔鏡下直腸切除術を導入しました。癌手術など Laparoscopic Advanced Surgery に関しては、自治医大さいたま医療センターからの派遣医師(柿澤奈緒先生・石岡大輔先生・高山法也先生・福井太郎先生・福田臨太郎先生・石川英樹先生・相沢英俊先生・菊地望先生・町田枝里華先生ら)のご協力のもと開始し、自治医大さいたま医療センターと遜色のないレベルでの手術が行われております。術後平均在院日数は約 10 日間となっております。その後、高山法也先生・石岡大輔先生が入職し外科 3 名体制となったのを契機に、腹腔鏡下幽門側胃切除術・腹腔鏡下胃全摘術を開始しました。現在では、大腸癌手術同様に安全・確実な手術を提供できております。

現在の新井病院外科では、手術のみならず、化学療法(抗がん剤治療)にも力を入れております。様々な癌種に対して、最先端の薬物治療を提供しております。現在の化学療法はゲノム情報に基づく薬物選択が重要になっております。そのため、生検材料・手術材料の検体保存から見直し、良質な RNA/DNA が抽出できるような体制を整えました。また、がん遺伝子プロファイル検査を埼玉県立がんセンター腫瘍診断・予防科(赤木究先生)にお願いすることにより、より高度で最先端の医療を提供できるようになっております。

このように、現在の医療においては、一施設で完結するというよりは、多くの施設の先生方、また、南埼玉郡市医師会の先生・職員の方々のご協力のもとに行われております。また、100 年の歴史を誇る新井病院では、看護師・技師・理学療法士・管理栄養士・事務職員方の新しいことへの理解・挑戦への気概も高く、これから先の時代にも柔軟に対応し、新たな歴史を刻んでいくものと確信しております。

新井病院 消化器外科 高田理



レントゲン装置一斉入替

私たち放射線室の職員は、様々な画像診断機器を使用して患者様の病気の発見や痛みの原因を探るための画像を提供しています。撮影するのは医療画像と医用放射線について専門の知識を持つ診療放射線技師です。全員が常に最高の画像を提供できるよう日々研鑽を積んでいます。どうぞ、安心して検査に臨んで下さい。

FPD (フラットパネルディスプレイ) 導入

●被ばくの低減が可能！

FPD は従来のレントゲン撮影装置と比べ、X 線照射量を最大約 40～50%低減可能となり、また X 線の感度が高いため、照射線量を減らしても高精細な画像を得ることができるようになりました。

●撮影時間の短縮→待ち時間の短縮！

従来のレントゲン撮影装置では、撮影方向を変える度にカセットと呼ばれる板を入れ変えなければならなかったのですが、FPD では板を入れ変える必要性がなくなりました。また、従来のレントゲン撮影装置と比べ撮影してから画像が見られるまでの時間も短くなったため、1人あたりにかかる撮影時間が全体で約 25～30%も短縮されました。そのため、待ち時間も短縮されました。



フラットパネルディスプレイ



低床型昇降撮影台



X線撮影装置

入院の食事について～栄養課～

● 病院の食事について

栄養課では、入院患者様の治療に適した食事を提供しています。新井病院管理栄養士2名、給食委託会社(富士産業株式会社)スタッフ9名の合計11名で、1日あたり約200食の食事を管理しています。入院中の食事は、大切な治療の一環ですが、楽しみの一つとなり安心しておいしく召し上がって頂けるよう努めています。

● 栄養相談について

栄養相談では患者様の病態に適した食事のとり方をご説明いたします。

※食事についてのご質問・ご相談がありましたら、担当医、看護師にお申し出ください。



行事食の紹介

四季を感じられる食事は、食べる楽しみを増やします。

当院では、月に1～2回、季節をテーマにした食事を提供しています。

(写真は常食の例)



手作りのカードを添えています



【敬老の日】

ちらし寿司、天ぷら、和え物、すまし汁、果物



【ハワイ料理】

ロコモコ、サラダ、スープ、ケーキ・フルーツ



【クリスマス】

エビピラフ、チキン、かぼちゃサラダ、スープ、チョコレートケーキ

診療担当医表

令和4年10月1日～

黒字:男性医師

赤字:女性医師

		月	火	水	木	金	土
内科	午前	関谷・伴	関谷・太田・嶋村	関谷・吉田(兼)・明石	宮脇・渡邊	関谷・吉田(兼)・比企	関谷・佐藤
	午後	吉田(兼)13:30～15:00 伴	関谷予約14:00～15:00 嶋村	明石	宮脇・渡邊	比企	-
消化器内科	午前	千葉	-	吉田(兼)・今井	千葉	吉田(兼)・千葉	今井・千葉 1.3.5 週
	午後	吉田(兼)13:30～15:00 今井	千葉	-	木原	今井・豊澤	-
循環器内科	午前	伴	太田	明石	渡邊	比企	佐藤
	午後	伴	-	明石	渡邊	比企	-
呼吸器内科	午前	-	嶋村	-	宮脇	-	-
	午後	-	嶋村	-	宮脇	-	-
糖尿病内科 膠原病内科 リウマチ科 アレルギー科	午前	関谷	関谷	関谷	-	関谷	関谷
	午後	-	関谷予約14:00～15:00	-	-	-	-
肝臓内科	午前	-	-	吉田(兼)	-	吉田(兼)	-
	午後	吉田(兼)13:30～15:00	-	-	-	-	-
一般外科 消化器外科 肛門外科	午前	高田・千葉	石岡・河村	今井・高田・市田	千葉・高山・柿澤	千葉・石岡・横瀬	今井・千葉 1.3.5 週・ 高山・石岡
	午後	今井	千葉・河村	市田手術日は休診	柿澤手術日は休診	今井・横瀬	-
呼吸器外科	午前	水越 受付11:30まで	-	-	-	青山	-
	午後	-	-	-	-	-	-
整形外科	午前	増山 第4週は休診	増山	増山	吉田(理)	-	相原
	午後	-	-	-	吉田(理)14:00～	増山	-
脳神経外科	午前	-	宮澤	-	-	宮澤	-
	午後	-	宮澤	-	-	宮澤	-
乳腺外科	午前	-	-	-	-	-	中川 1.3.5 週 (※1) 小田 2.4 週
泌尿器科	午前	-	矢崎受付11:00まで	-	眞弓受付11:00まで	-	-

診療日:月曜日～土曜日

(※1)土曜日の乳腺外科は完全予約制です。

休診日:土曜日午後・日曜日・祝日・年末年始 12/31～1/3 夜間・休日は急患のみ受け付けております。電話で確認の上、ご来院下さい。

診療受付時間:月曜日～金曜日 午前8:05～12:00 午後13:00～16:00 診療時間:午前8:30～ 午後13:30～

土曜日 午前8:05～12:00

●この診療担当医表は変更になることがありますので電話で確認の上、ご来院下さい。●再診の方は予約が可能です。

病院食のレシピ紹介

カニ豆腐 (1人分 エネルギー139kcal・食塩1.6g)

【2人分】

木綿または絹豆腐・2/3丁

カニ風味フレーク・40g

長ネギみじん切り・5cm

むき枝豆・20g

★ 中華顆粒調味料・小さじ1/3
しょうゆ・小さじ1
料理酒・小さじ1
食塩・ひとつまみ
水・150ml
片栗粉・小さじ1強
ごま油・小さじ1/2



- ① 豆腐は食べやすい大きさに切って、お湯または電子レンジで温めて水気を切っておく。
- ② 鍋に★の材料を入れて火にかける。ほぐしたカニ風味フレークと長ネギのみじん切りを加えて少し煮る。水溶き片栗粉でとろみをつけて、ごま油を加える。
- ③ 器に水気をよく切った豆腐を盛り、②のカニあんをかけて、枝豆をのせる。
(ご家庭で作りやすいようにアレンジしています。)